

第6回 立川市新校舎建設マスタープラン検討委員会

日時 : 平成28年12月21日(水) 18:00~20:00

場所 : けやき台小学校 視聴覚室

出席者 :

【検討委員会委員】 ■長澤委員長 ■富永副委員長 ■菅原委員 ■小林委員 □佐藤委員

■須崎委員 ■星野委員 ■大野委員 ■藤縄委員 ■山田委員

■堀江委員 ■栗原委員(教育部長) ■吉岡委員 ■宮城委員

■飯塚委員 ■梅津委員 ■白井委員

【市職員】 ■小林課長(施設課) □田村課長(学務課) ■神崎課長(子ども育成課)

□小瀬課長(指導課) ■矢ノ口課長(教育支援課)

【事務局】 ■庄司課長(教育総務課) ■中島(教育総務課)

【策定支援業者】(株)豊建築事務所 ■田中 ■奥澤 ■高柳 ■表 (以下敬称略)

開催に当たって

- ・配布資料の確認。

1 前回と今回の検討委員会について

- ・事務局より、前回の検討委員会にて決定した理念について、市議会の文教委員会で報告したことを説明した。
- ・ゾーニング案については、学童保育所が南側に配置するB案で検討を進めることを説明した。

2 新校舎のゾーニング案について

- ・策定支援業者から、新校舎のゾーニング案について、説明を行った。
- ・模型を囲んでゾーニングのイメージを共有した。

<主な意見>

【P委員】 子どもたちが使う階段の幅と校庭から戻ってきたときの入口の幅について狭いため、かなりの混雑が予想されるのではないかと。特に昇降口の幅と、校庭から戻ってくるところの入口の幅が違っているので、配慮してほしい。

【M委員】 放送室についてB案だと3階に放送室があるので使いにくい。放送室も1階の管理諸室に近接した位置が良い。放送室が3階では、運動会の際に校庭との連携をとりにくい。1階の管理諸室の中に放送室が入るような形で考えてほしい。

【策定支援業者】 B案は、図書室等の連携を図るイメージである。今後1階の管理諸室の中に放送室が入るような配置案を検討したい。なお、運動会の際の放送については放送用の盤をグラウンド側に設けて、放送が直接そのまま流せるような方法もある。

【委員長】 校内の伝達とか、先生の放送については、職員室で出来る設備が用意されていて、放送室は、子どもたちの活動としてどう位置づけて、そのためにどういう場所が良いか検討してほしい。

3 プールのコスト比較について

- ・策定支援業者よりプールのコスト比較について説明を行った。
- ・事務局より、温水プールやプールに屋根を設置することについては、維持費がかかることと、なるべく本来の目的である子どもたちの教育環境の整備にコストをかけたいとの理由から屋上にプールを設置する③案を進める方針であることを説明した。

4 テーマ別 ①地域開放ゾーンについて

- ・策定支援業者より地域開放ゾーン（体育館、多目的室、地域ラウンジ）について説明を行った。
- ・事務局から、現状の案は立川市内の小学校の体育館と比較すると、一番広い体育館になる点について補足説明を行った。

【委員長】 広い体育館の設置は、これまでのこの検討委員会やアンケート、ワークショップなどで出された、運動施設を充実してほしいとの意見や要望を反映したことになる。

【栗原委員】 体育館の広さについては、確定でなく検討委員会の中で合意を得られれば、最終的に報告、提案をしたいと考えている。

【委員長】 考え方としては、機能に依る面積、寸法ということである。今の時点では、大人用の正規のバスケットボール28m掛ける15mの広さが確保できる。中学校だともう少し、長さが26mという広さもある。

【副委員長】 小学校の体育館ですが、共用スペースでもあるという考え方が重要だと思う。地域団体にも開放しているので広い体育館は地域に貢献すると思う。

【委員長】 28mのバスケットコートの使用頻度はどの程度あるか。

- 【副委員長】 地域開放では使用頻度が多分あると思う。小学校の授業での利用はありますか。
- 【N委員】 授業でもある。高学年になると、現状では小さいので、縦に使うこともある。
- 【委員長】 現状ではこの寸法を想定して配置の案を考えているが、この寸法で設計することに決まったわけではないことだけご了解いただきたい。
- 【P委員】 特別支援学級のこの広さを確保した上で、校庭からの入り口を広くとることも考えて、体育館の面積を検討する必要があるではないか。
- 【M委員】 南の校庭からの出入り口や階段を広く確保することを考えて、体育館の広さを決めても良いと思う。広い体育館ありきではなく、一番大事なのは子どもたちの安全である。
- 【C委員】 特別支援学級の位置が非常にいい位置で、南の位置でグラウンドへも直接ここへ行けるという良さがある。半面にぎやかさに対する配慮について伺いたい。
- 【策定支援業者】 このゾーンの中に廊下を通して反対側に倉庫等で音をシャットアウトするような形で今考えている。
- 【C委員】 緩衝ゾーンを設けるようなイメージですね。
- 【副委員長】 管理棟が1階の中央に配置することで、両方に行き来できる。教育支援担当課の見方とか、それから学童保育所担当課の見方とか小学校の先生の危機管理意識についてはどのように考えているか。
- 【神崎委員】 学童保育所の場合は、第九小学校のくわのみ学級とも隣同士でやらせていただいている。今のところうまく関係を保っているという認識である。
- 【委員長】 図面の中にいろんな要素が込められている。この形が決まったということになると、この後の議論がなかなか柔軟にできなくなる可能性がある。この辺の議論は教育面と施設面を合わせて、さらに検討課題としてあるということが、この場では共通理解できれば良い。
- 【F委員】 視察で行かせていただいた、はるひ野小中学校では、地域の開放ゾーンからは、小学校に入れられないようなドアがあったと思う。今回はドアの区分がなく、地域の方もトイレに行きたい場合、多目的ホールを通らなければならないのか。

【策定支援業者】 はるひ野小中学校の場合は、地域ラウンジ単独でセキュリティーを分けている形になっている。今回の場合は、地域開放ゾーンというような形で子どもも使うし地域の方も使うというような形になると考えている。正門を事務室でセキュリティーを通過した方だけが中へ入ってくるような形で考えている。

【栗原委員】 地域ラウンジの運用については、通常の学校授業を行っている際に地域ラウンジを使う方は、学校に關与している支援員の方や見守りをして下さっているシルバーの方の休憩スペースと考えており、全く学校の支援に關係ない人が授業中にここを利用することはないと考えている。学校を支援する人がそこを使うということで、誰もが自由に入ってくるわけではなくて、セキュリティーゾーンは運用方法を工夫することで外部からの不審者の侵入を防げるのではないかと考えている。

【H委員】 ある施設では、入館者にカードを発行していて、そのカードを持っていない人は入れない。対象者にカードを発行しカードを持った人が、管理室を通過して中へ入るようにすればセキュリティーが守られるのではないかと考えている。

【委員長】 開放ゾーンを設定して、そのゾーンでトイレに行くときに学校ゾーンに入らないで済むような計画にした方がよい。その開放ゾーンの中でまとまった形で運営ができるようにするということが原則だと思う。今はまだ、この図面は設計前の段階ですから、ご指摘いただいた件は、これから設計の中できちんと踏まえていただくということになると思う。施設はそういう構えをきちとした上で、運用の話が出てくると考えている。

【M委員】 地域ラウンジという名前が先についているが、地域ラウンジも管理諸室の1つとして、午後見守ってくれるシルバーの方たちの休憩室等の支援する室として、管理諸室の中に学校側がお願いをしている方たちが来るという考え方でよいと思う。現在、体育館や校庭の開放は、スポーツ振興課が担当している。このことを踏まえて設計してほしい。

【G委員】 現在、地域コミュニティールームという形で、学校支援にかかわっている人たちの荷物が置いてある部屋がある。そういうような使い方が広々できればありがたいなと思う。その部屋を他の方たちの、談話室等の一般的な方たちがあまり学校に入り込むような形は、そこまでは目が届かないのではないかと考える。

地域としても、そこまで学校を開放していただかなくてもいいのではないかなという気がする。

4 テーマ別 外部空間について

・策定支援業者より外部空間について説明を行った。

【I委員】 歩道に面して、学校のガラス面というのはセキュリティーの問題で、石ころを投げられて割られるという可能性もあると思う。立川市の学校は、大体囲いの中に校舎がある。防犯上大丈夫なのかと感じる。市のほかの学校にもそういうところはあるのか。

【栗原委員】 第一小学校には、校庭側には塀やフェンスがあるが、校舎、建物と道路の境にはフェンスがない。建替えてから2年経つが外から割られたことはない。もし、夜間、誰かが棒でも石でもたたいて割って入れば、すぐ機械警備が作動するようになっている。

【委員長】 考え方の1つは、1点斜線のところに今は塀があるわけですが、この学校に限らずですが、何か物が雑然と置かれているスペースに利用されていることが多く、塀と校舎との間の空間があまり生かされていない。今回は道路の幅を広げるとか、まちを豊かにする空間として活かしていくことの提案だと考えている。

【G委員】 先ほど、現在の歩道は自転車の道にして、内側は子どもたちが歩けるような歩道にする計画だとの説明があり、すごく理想的だなと感じた。意外と、けやき台小学校の登下校に、高校生や保護者の自転車がとても多いので、そういうような使い方ができると子どもたちにとって安心して学校に来れるんじゃないかなと思う。

【委員長】 最後に提案のあった、森については、地域の力の強いまちの学校づくりですから、学校に森をつくる、そういうのを何かうまい取り組みができるといいなと思う。子どもたちがかかわる最初の仕事が地域の人と一緒に森をつくる、苗を植えるという話で。学校の周りに、線状に木を植えるというのは一般的ですが、面的に木があると、その下にいろんな草が生えてきたり、花が育ったり、虫が生活したりという、場所があると良いと思う。

4 テーマ別 防災拠点、バリアフリーについて

・策定支援業者よりバリアフリーについて説明を行った。

【G委員】 給水タンク（受水槽）の位置はどの辺に考えているのか。

【策定支援業者】 受水槽の細かな位置までは検討していないが、体育館の近くに配置できればと考えている。

【委員長】 まちの景観をきちんと考えて配置を検討してほしい。受水槽から衛生的に水を取り出すというのは随分重宝されている。受水槽に蛇口をつけておくと水が、出しやすい。1人3リットルぐらいで2、3日ということだったら、かなりの人数が対応できると思う。

【C委員】 避難所は人間だけじゃなくてペットも来る。そのあたりの想定もしておく必要があると感じている。熊本地震が起きて避難所運営された3校ほどの学校に伺ったが、ペットは家族の一員なので、一緒に過ごしたいというので中に入ってくるということがある。そのあたりを想定しておかないといけない。

【Q委員】 ペットの受け入れについては、各自治体で、受け入れるところと受け入れないところがあるが、立川市の対応はどのようになっているか。

【栗原委員】 ペットは同行避難を認めています、建物内にペットを入れるというのは認めていない。

【C委員】 実際の震災時、ある学校では、停電の中で混沌としていて、ペットは外につないでくださいと言っても、だんだん校舎内に入ってきてしまう状況だったということを伺った。そのような状態になりうるとことも想定し、区画するならばきちんと区画するんだということを市民の皆さんも理解していただかないといけない部分があると思う。また、今回の資料をみると車いす用駐車スペースから校舎玄関まで少し距離があるように見えるが、駐車場から昇降口までの車椅子のルートは、雨の日にぬれないよう、駐車場に庇を設け、入口までも雨に濡れないルートをつくってほしいと要望をよく伺う。多機能トイレについて、特にアリーナの近くのトイレは、避難所運営のことも考えるとできれば赤ちゃんのおむつ替えシートや大型のベッドがあると、高齢の方や要配慮者の方にも使いやすくなる。

【Q委員】 トイレの話ですが避難所の中で一番重要な問題なのがトイレと言われている。予測される避難者数に対して何基必要なのかと、これが基本になる

と思う。国交省のガイドラインによると、予測される避難者数に対して70人に1基。内閣府は50人に1基だと。国連は、40人に1基。学校は、男子60人に1基と、それから女子に30人に1基。国や内閣府は、マンホールトイレをつくりなさいと推奨している。

若葉小、それからけやき台小、それから九中、3つがこの地域の避難所になっていると思うがそれぞれ避難所が対象とする世帯数が違う。けやき台小学校は7,000人以上が対象になっている。九中は、1,600人、若葉小は、3,400人ぐらいだ。それぞれの避難所の規模に応じて、マンホールトイレを増やした方が良いと考える。立川市の地域防災計画によると、けやき台小学校の最大収容は1,090人、若葉小も同じである。こういう機会を捉えて改善する方向に持っていただきたい。

けやき台小で夜に避難所の訓練をやったが、暗いという問題、怖いという問題を解消するためには明かりが必要である。明かりを確保するという意味で、屋上に芝生だとか菜園というのがあったが、太陽光発電を屋上につけて、防災にも役立つというふうに、検討してほしい。

【委員長】 プールを体育館の上に配置することも、災害時の水利用ということでは非常に効果がある。今度の学校の災害に強い学校づくりというのは1つ大きなテーマにするということで、防災の担当課とも連携しながら、学校に備えておくべきものをきちんと考えていくことにした方が良い。

【K委員】 学童保育所は、多くのお子さんがきつと小学校の中の学童を利用することを求めていると思う。学童保育所のスペースをもっと増やすとか、2階建てなど、防災の意味でも二次避難所なので、スペースを広げておいたらどうなのかなと思う。

【神崎委員】 今のところ待機のお子さんが出ないような規模の学童をつくるつもりでおりますが、新校舎の中の学童に全てのお子さんが入っていただくというのは難しいと考えている。

【委員長】 次回、議論ができるような、プレゼンテーションをしていただけたらと思う。トイレについては、インクルーシブということで、校内に1カ所は多機能トイレがあればいいというのではなく、各トイレに、障害がある子

とない子が一緒に活用できる。そんなこともテーマになると思う。

5 その他 次回の検討委員会について

- ・第7回新校舎建設マスタープラン検討委員会

日程：平成29年1月30日（月） 午後6時～8時 会場：けやき台小学校

- ・説明会について

日程：平成29年1月27日（金） 午後7時～9時 会場：けやき台小学校

日程：平成29年1月28日（土） 午前10時～正午 会場：若葉小学校